

Let's Read 2 「本文を理解する」「メッセージを伝える」 力をつける

高草木 直子 (たかくさき なおこ 東京・文京区文林中学校)

〈メッセージ〉 寺島メソッドの本に学び、2学期から「記号づけプリント」「リズム読み」に取り組み始めました。試行錯誤の段階ですが、少しずつ生徒たちの英文の構造理解が進んできたと感じています。現在は「ニュークラウン」を使用していないので、過去の実践を交えて書かせていただきました。

1. カンボジアの歴史を知ることから

『ボルボト政権の犯罪』という本を読んだり、英語の授業でカンボジアのことを教えたりするうちに、実際に行ってみたいという気持ちが高まり、15年前くらいにカンボジアを訪ねたことがあります。現地ですんだことや集めた資料を元に、地雷が埋められた経緯、被害にあった方たちの様子などを、生徒たちに紹介します。そして、カンボジアの地雷について読解を行うときは『ゼロ・ランドマイン』のDVDを生徒に見せ、地雷が一人の人間をどれだけ苦しめるのかを伝えます。DVDを見終わった生徒たちが一言も発さずに黙々と感想を書く光景、心が動いている光景を私は何度も見てきました。またカンボジアと言えば「アンコールワット」が有名ですが、クメール王朝やアンコール遺跡にも言及し、カンボジアの別の側面も知ってもらいます。

道徳の時間などを使ってこのような取り組みを行うのは、題材を身近に感じてもらうためです。アキラさんがどのような思いで地雷除去を行い、地雷博

物館を作ったのか、その気持ちを想像するためには、背景理解が大切です。そうすることで、学びに奥行きが出てくると思うのです。しかし、すべての課で題材を深めるのは大変なので、興味のあるものや心がワクワクするものにアンテナを張り、自分の強みを生かして、教材づくりを行うとよいのではないのでしょうか。

2. 記号づけプリントで読解

『新英語教育』6月号に掲載されていた「寺島メソッド」に興味をもち、『寺島メソッド英語アクティブ・ラーニング』『英語記号づけ入門』『ロックで学ぶ英語のリズム』を拝読し、記号づけプリントとリズム読みを勉強しました。独学ゆえに自己流の部分がありましたら、申し訳ありません。

英文を書くときに、生徒は「?!」とってしまう語順で、文を作ったりします。語順については、折にふれて指導しますが、おそらくピンと来ていない生徒もいるのでしょうか。記号づけプリントは、TFやQ&Aなどでカバーしきれない文構造の理解を深めてくれます。高校での実践を追試したもので、中学校で行うとどうなるのか不安でしたが、英語が苦手な生徒も含めて、プリントに集中して取り組む生徒を見ると、中学生にも記号づけプリントは内容や語順を理解する上で有効であり、また自立した学習者を育てていると感じました。



リハビリを行う地雷被害者。

20歳の青年。5歳のとき、被害にあった。

〈記号づけ例〉

[One day] an oxcart hit a landmine.
[] _____ ○ 地雷に
The animals and the two adults died, but
_____ ○ しかし
the field was not silent. A baby cried.
_____ ○ 静か _____ ○
Landmines were [all around her].
_____ ○ []

3. ペアで答えを確認 →自信をもって発言

生徒たちは個人で記号づけプリントに取り組んだあと、ペア、またはグループで記号づけや和訳の答えを確認しあいます。緊張感をもって取り組んでもらうために「順番に当てていく」と指示するときもあります。事前にわからない箇所は聞きあうので、英語が苦手な生徒も安心して答えることができます。

4. リズム読みとじっくり読みで 音読練習

意味を理解したら、次は音読練習です。全体→ペアで練習したあとに、ペンをもって、強勢マークにあわせて机を叩きながら、再び読む練習を行います。ペアまたはグループで、英語らしいリズムで本文を読めるように練習します。余談になりますが、教科書の本文は強勢リズムが等間隔で表れないので英語らしいリズムになりきれない印象を受けます。毎月歌う英語の歌は、自分で何度も聞いて記号をつけてみると、ほぼ等間隔の強勢リズムになるのですが…。

音読練習の仕上げは「じっくり読み」です。内容を味わいながら、ナレーターになったつもりで、個人個人でゆっくりと読みます。パートナーが聞き役となり相づちを入れることもあります。英語らしいリズムも大切ですが、自分が主張したい箇所、共感した箇所を強く読ませてもよいと思います。

5. 紙芝居形式でグループ発表

この課は全4ページで構成されています。4ページ分の英文を各グループに割り当て、ピクチャーカードを用いて、紙芝居形式で発表してもらいます。このとき一番意識させたいのは「内容を伝える」ということ。暗唱が難しい場合には、忘れたら見てよいことにすると、内容に気持ちが向きやすくなります。最後に最も良かったと思うグループまたは個人を生徒に選ばせ、その理由も書いてもらうと有意義なシェアリングができると思います。

6. Let's Read の扱いについて

教科書の最後に掲載されている読み物教材は、年度末に扱うので時間数が限られていることも多いと思います。時間がないときは、和訳させる箇所を絞って1回の授業で2ページ進めたり、発表を希望制にしたりするなどの工夫が必要です。しかし、読み物教材には内容が魅力的なものも多いので、ある程度時間をとって教えられるよう心がけたいと思っています。

7. 最後に

「メッセージを伝える力」は、伝えたいという気持ちが起点となります。生徒の感受性を揺さぶるような授業、また伝えるための英語の力がつく授業を行っていかれたらと思います。

この原稿の依頼をいただいたとき、ちょうど地雷博物館内爆発によるアキラさんの事情聴取と地雷博物館の閉鎖のニュースが流れていました。その後どうなったのか気になっています。この出来事をきっかけに扱われている題材の「いま」に、もっと目を向けていきたいと感じました。真相が公平に解明されることを願うばかりです。

〈参考文献〉

- ・寺島隆吉監修、山田昇司編著(2016)『寺島メソッド 英語アクティブ・ラーニング』明石書店
- ・寺島隆吉著(2016)『英語記号づけ入門』三友社出版
- ・寺島隆吉著(1998)『ロックで学ぶ英語のリズム』(あすなろ社)